



武蔵村山市立第一小学校

学校だより

令和6年1月31日



【重要】一中だけでなく一小も

校長 押本 純樹

第一中学校の副校長先生が大きな紙袋を下げて来校しました。その中には、中学校で行われた新1年生保護者会の資料が入っていました。毎年この時期に数部預かっては、本校の6年生を通して、その会を欠席した保護者へ渡しています。

このとき、その資料について、副校長先生同士でちょっとした情報交換がありました。もはや、やはりと言うべきでしょうか。中学校でも生徒のスマホの取り扱い方が大きな課題となっていました。資料を詳しく見せてもらおうと、「Ⅶ 御家庭へのお願い」のページがあり、【重要】と記され、約1ページを使ってSNSに関する諸注意が載っていました。

これは対岸の火事ではありません。本校でもここ数年、スマホのラインによるいじめが高学年で毎年発生しています。これまではその当該学年や学級に指導すると収まる傾向があったのですが、喉元過ぎれば熱さを忘れるではありませんが、最近では2回3回と指導しなければならなくなってきました。

これも時代の流れでしょうか。身をもって経験しなければ、本当に理解できないことかもしれませんが、いじめられた側の心の傷を考えると、その代償は大きすぎます。セーフティ教室で講師を招き、以前より学年を下げてスマホの安全な使い方を指導していますが、そのときは真剣に話を聞いていても、実際に実物を手にすると、気持ちが緩んでしまうようです。引き続き学校は、自己管理できない段階での利用は適していないという認識です。繰り返しになりますが、買い与えた保護者の責任の下、安全な使用管理をお願いいたします。この姿勢は、一中でも同じです。

せめて、管理できる親子間だけの連絡ツールのみを使用を限定することはできないのでしょうか。友達間でライングループなど作らずとも、毎日学校で顔を合わせて直接話をすればいいと思うのは、古い頭なのでしょうか。iPhoneを世に送り出したスティーブ・ジョブスは、自分をコントロールできない者は持つべきではないとし、我が子には高校生まで持たせなかったそうです。

大人でもそうですが、グループ内の同調できる安心感は心地よくも、必ず余計な気遣いがついて回ります。ある担任が学級づくりに向けて、「クラスに仲良しグループは作らせません。そんな粋なんか取っ払って、とにかくみんなで遊べるクラスにしたいです。」と言っていたのを今も覚えています。グループだらけの世の中からすれば、難しいことですが、目指す理想は、ここにあるような気がしてなりません。



中休みのドッジボール大会